



ヒトメタニューモウイルス感染症は、風邪と似た症状を引き起こす呼吸器感染症です。乳幼児や高齢者、免疫力が低下している人が感染すると重症化する可能性があります。専門家に予防法や治療法を聞きました。

ヒトメタニューモウイルス感染症

ヒトメタニューモウイルス感染症は、2001年に発見されたヒトメタニューモウイルスによる呼吸器の感染症です。多くが1〜3歳の乳幼児の間で流行しますが、大人にも感染します。せきやくしゃみで体外へ出たウイルスを吸

するとゼイゼイ、ヒューヒューという呼吸(喘鳴)や呼吸困難になることもあります。検査には「迅速検査」があり、鼻の奥に綿棒を入れ、10分程度で結果が出ます。迅速検査の保険適用は、6歳未満で肺炎が強く疑われる場合に限ら

症化することがあります。多くの国で冬から春にかけて流行し、わが国では3〜6月がピークです。しかし、新型コロナウイルスの流行以降、さまざまなウイルス感染症の流行時期に変化があるため、ヒトメタニューモウイル

症状は「かぜ」、手洗いなど対策を

い込んだり(飛沫感染)、ウイルスに触れた手で鼻や口を触ったり(接触感染)して感染します。感染から発症までに4〜6日を要します。症状は、発熱(多くが4〜5日)、せき、鼻水などのいわゆる「かぜ症状」で、特徴的なものはありません。悪化

れるため、症状が軽い場合や6歳以上は自費になります。治療については特効薬がなく、対症療法を行います。一度の感染では十分な免疫を得られず、感染を繰り返すことで徐々に免疫がつき症状が軽くなります。乳幼児や高齢者、免疫力が低下している人は重

ス感染症の流行時期も変わるかもしれません。登園・登校については、決められたものはなく、本人の状態が良ければ可能になります。有効なワクチンがないため、感染や感染拡大を防ぐには、手洗い、手指のアルコール消毒、マスクの着用、せき

エチケットなどの対策が欠かせません。兄弟が感染している場合には、ドアノブ、手すり、おもちゃなどよく手が触れる場所をアルコール消毒することも大切です。

(兵庫県小児科医学会、岡藤隆夫、姫路市、岡藤小児科医院) ◇第1、3、4日曜に掲載